

TDK創業者・齋藤憲三が唱えた「農工一体」の現代版 環境保全型スマート農業連携協定締結式



▲象潟庁舎で行われた協定締結式(写真：上)、畑地区で行われたアイガモロボの進水式(写真：下)

5月17日、(株)権右衛門、TDK(株)、井関農機(株)、有機米デザイン(株)とにかほ市の5者により、地域活性化を目的とした環境保全型スマート農業連携協定締結式が行われました。

除草作業の負担が大きな課題となっている稲作の有機栽培。本協定により雑草の発生を抑える自動除草ロボット(アイガモロボ)を活用した生産実証実験などを行い、環境保全型スマート農業の営農モデルの構築を目指しながら事業を推進していきます。



音楽や実演をとおして作品を楽しむ 池田修三生誕100周年記念「春のメロディー」

4月28日から5月1日にかけて、象潟公会堂で池田修三木版画展&コンサート「春のメロディー」が開催されました。今回の木版画展は、主に春を感じさせる作品の展示のほか、市内コーラスグループの発表、修三さんの小作品を手掛けている摺師小林義昭氏(竹芳洞・横浜市)の講演と実演、青谷明日香氏のライブが催されました。期間中は多くの観客が訪れ、たくさんの池田修三作品に彩られた公会堂で、音楽や実演などを楽しみ、作品に思いをはせていました。



▲青谷明日香氏のライブ(写真：左)、小林義昭氏、(写真：上)と完成した版画、コーラスの発表(写真：下)

移住希望者のサポート役として 地域おこし協力隊委嘱状交付

5月2日、地域おこし協力隊に石井智代さんが着任し、象潟庁舎で市長から委嘱状が交付されました。千葉県から移住してきた石井さんは今後、移住リエゾンとして移住希望者の相談業務やSNS等を活用した情報発信などを行います。また、首都圏に住んでいた移住希望者としての視点や移住経験を活かし、移住希望者のサポートもしていきます。



▲委嘱状を交付される石井さん(左)

企業と市の橋渡し役として 企業活性化アドバイザー委嘱状交付

5月2日、企業活性化アドバイザーに小笠原正さんが着任し、象潟庁舎で市長から委嘱状が交付されました。企業活性化アドバイザーは主に、市内製造業などを巡回訪問し、企業が抱える課題や問題を収集するほか、市の施策紹介等を行う業務を担います。今後、多くの企業を訪問しますので、たくさんの質問や意見をお寄せください。



▲アドバイザーとしての抱負を語る小笠原さん

踏切の正しい渡し方を体験 鉄道安全教室

4月25日、象潟小学校で鉄道安全教室が行われました。参加した同校1年生51人は、JR東日本社員による模擬踏切を使用した実演などを通じて、踏切を安全に渡る方法などについて学習。教室が終わると「今日聞いたことをお家の人にも教えてあげたい」と話す児童の姿も見られ、安全意識の高揚が図られた教室となりました。



▲踏切は危険な場所だということを学びました

“環鳥海”エコツーリズムの拠点として アウトドアアクティビティ拠点施設整備に関する協定締結式

4月21日、(株)モンベルとアウトドアアクティビティ拠点施設整備に関する協定締結式が行われました。これにより、令和5年秋のオープンを目指しアウトドアを切り口とした地域活性化を進める拠点として、ビジターセンターの整備が道の駅象潟エリアで進められます。オープン後はアウトドアアクティビティを目的とした観光客の増加などが期待されます。



▲(株)モンベル代表取締役辰野会長(右)と市川市長